

臨 床 研 究 部

臨床研究部門は 6 つの研究室（細菌免疫研究室、病理疫学研究室、生化学研究室、薬理研究室、病態生理研究室、看護研究室）から構成されているが、各診療科だけでなく多くの部門からの参加による研究が行われている。治験管理室は治験・受託研究・臨床研究をサポートしている。また、治験審査委員会・倫理委員会の事務局にもなっている。

平成 30 年度の東京病院臨床研究部の研究業績ポイントは 883.163 ポイントであり、平成 29 年度の 1119.562 ポイントより減少したが、国立病院機構の施設中 19 位であり、順位に変動はなかった。分野別研究業績ポイントは、「呼吸器疾患（がん以外）」、「アレルギー疾患」、「感染症」、「膠原病（骨・運動器疾患）」、「結核」、「がん（呼吸器）」で 30 ポイント以上であったが、このほかにも「病理」、「リハビリテーション」「エイズ」、「肝疾患」、「がん」、「放射線」、「脳卒中」、「経営管理、医療安全、感染管理」、「膠原病（骨・運動器疾患以外）」など幅広い分野で研究業績ポイントを獲得している。平成 30 年度は英文論文 55 編、和文論文 38 編が報告され、202 の学会発表がされているが、論文・学会発表による業績ポイントは 682.203 ポイントと、平成 29 年度の 721.602 ポイントより減少した。国立病院機構の共同臨床研究では、5 課題で NHO ネットワーク共同研究の代表施設となり、12 課題で分担施設として貢献した。一方、EBM 研究では 3 課題の分担施設として貢献している。3 課題の日本学術振興会科学研究費を代表として獲得しており、1 課題の厚生労働科学研究費と 5 課題の日本医療研究開発機構研究費を分担として獲得して、4 課題の民間セクターからの助成金を得ており、競争的資金の確保に貢献している。平成 30 年度の競争的資金の獲得額は 1390 万円であり、平成 29 年度の 1124 万円より増加している。平成 30 年度は 11 件の治験と 50 件の受託臨床研究・製造販売後調査を行った。平成 30 年度の治験等の総額は 2868 万円であり、平成 29 年度の 3592 万円より減少している。

臨床研究部では、年報とは別に臨床研究部業績集を作成しており、より具体的な組織・現状・実績が収録されている。